

このやうに言葉といふものは非常に偉力をもったものでありますが、私は、第二番めに、言葉と文字との関係、これについて申し上げたいと思ひます。

言葉といふものは、そのやうに偉大な力をもって居りますが、私は、その言葉の生命を長く保ち、これを成長発展させるものは文字である。日本語においては漢字である。とこのやうに考へるものであります。

例へて申しますと、「手」といふ言葉があります。中国の現代語では、これを shou と発音して居ります。ところで「受(うける)」といふ言葉がございます。それから、「授(さづける)」といふ言葉もございます。これらはいづれも、中国語では shou で、「手」と同じ発音をしてゐます。と申しますことは、私どもはこの三つの漢字を全く別の言葉として理解して居りますが、中国においては、言葉としては実は一つの言葉であつたといふことを示してゐるのであります。

つまり「手」といふ言葉が、「手」そのものを表すと同時に、「手にする」つまり「手で受ける」、あるひは「手渡す」といふ意味にも使はれるので、それぞれの使ひ方に従つてそれぞれに固有の字を作つたのであります。言葉としては同じですけれど、「手にする」つまり「受ける」といふ

意味を表す時には、「受」といふ文字でこれを表し、「手渡す」といふ意味を表す時には、「授」といふ文字でこれを表す、といふやうに、別に文字を作つたわけでありませう。かうして shou といふ一つの言葉が、その使ひ方の違ひによって、「手」「受」「授」と書き分けられることにより、使ひ方や意味の違ひが明確に固定されるわけでありませう。

文字といふものは、元来、言葉を固定させるものであります。言葉といふものは、口から出た瞬間に消えてしまひます。しかも、言葉の伝はる範囲といふものは、一定の空間に限られてゐます。私のこのお話は、この講堂だけに限られてゐるわけでありませうが、私の語るものが文字になりますと、この空間を越え、現在といふ時点を越えて、将来いつまでもその効力を發揮するわけでありませう。従つて文字といふものは、さういふ機能上の違ひがございますが、もう一つ忘れてならないことは、言葉では精密に区別し表現できないものを、先の「手」「受」「授」の例のやうに、概念を明確に細分し固定する、さういふ働きをしてゐることを是非認識していただきたいと思ふわけでありませう。

さらに言へば、ハナといふ言葉がございます。これは日本語ですが、漢字を使って、「鼻」と「洩」とに書き分けてゐます。鼻から出る液体が

「洩」この字でございます。「鼻」と「洩」とは、言葉としては一つの言葉ですけれども、実生活上で異った使ひ方をしてゐるのであって、その違ひを文字で区別して表現することが出来る、これが漢字の効用でございます。

で、私どもは、以上のやうなことから、思考力の土台であるところの言葉、さらに言へば概念、これを明確にする働きをもつてゐるのが文字である、かういふやうに言ふことが出来ると思ひます。従つて、漢字を学ぶことは、概念を明確にすることである。従つて、物の考へ方をはっきりさせる。精密にさせる。引いては、頭脳を明晰にする働きをもつ。このやうに私は考へるのであります。この故に私は、今日の演題にありま^{ゆえ}すやうに、「漢字は才能を開発する」と、かういふ言ひ方をして居るのであります。

私は、六年生の教科書を見て居りました時に、かういふ表記にぶつかりました。「こう水」といふ表記です。これを見た時、私は一瞬とまどひました。と申しますのは、「こうずい」と読むべきものを、「こうすい」とうっかり読んだため、「洪水」といふ意味がすぐにはつかめなかつた^{わけ}訳です。「こうすい」と読みますと、私どもは次のやうな言葉を思ひ浮かべます。

「香水」「硬水」「鉍水」これらの「こうすい」がある訳です。

これらの言葉を、漢字によらないで、「こう水」といふ表記で子供たちに理解させようとする時に、私どもははたと当惑するわけでありま^{しか}す。それは、「こう水」にはこれこれかういふ使ひ方がある。かういふ意味がある、といふ事を子供たちに説明してやる事だけでしたら、それは出来ませう。然しながら、それを学ぶ子供たちは、一体何を手がかりにしたら、それらの言葉の異った使ひ方を明瞭に理解できるといふのでせう。これは大変な事でありま^{めいりょう}す。

今の子供たちは、六年生になつてもかういふ「こう水」といふ表記で、いくつもの言葉を学習してゐます。一つの表記でいくつもの言葉を表す、これでは言葉のもつ意味があいまいになるのが当り前でありま^{やす}す。これでは、はっきりとした概念をつかむ事が困難です。ところが、発音は同じでも、表記を別にすれば、意味を正確に表現する事が出来て理^{わけ}解し易くなる訳でありま^{わけ}す。これは、表音文字を使ふ欧米でも同様でありま^{わけ}す。

例へば、同じ(sou)といふ発音の言葉を、意味の違ひによつてこのやうな(so, sow, sew)の使ひ分けをして居ります。またこれ(saw, soar,

sore)は、これ(so, sow, sew)と私たち日本人は同じやうな発音をついいたしますが(sɔ:)といふ発音の言葉です。これにも同じ発音のものが三つあります。同じ発音の言葉を三つに書き分けると言へば大変のやうであります。かうあってこそ異った概念を明確に保持する事が出来る訳です。また、それ故にこそ、精密な思考をするのには、文字といったものが、言葉以上に役に立つ訳でありまして、かういふ「こう水」式の表記では子供たちの思考力は育たない、と思ひます。

そこで私は、たとひ幼児といへども、表記といふものは社会で一般に使ってゐるものをそのまま与へなければいけない。「洪水」「香水」「硬水」「鉱水」といふ形で与へなければいけない、とかう考へました。これが現在「石井方式」と呼ばれるものの基本的な考へ方であります。つまり、「社会一般に漢字を用ひて表記してゐる言葉は、絶対にカナ書きをしてはならない」といふことであります。どんな幼児でも、漢字で学ぶのがやさしい事であり、正確に理解出来るのですが、それ以上に、今のやうなカナ先習には大変な弊害があるので、今の学習形態はいけないと私は主張してゐるのです。

実は私は、十数年にわたって、従来 of 学習方式と石井方式の利害

とくしつ
得失を調査研究いたしました。その結果、現在の学習方式には大変な欠陥のあることが判つたのでありますが、その事については申しあげる時間がございませんので、省略させていただきますと思ひます。